

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 14 日現在

機関番号：62501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520790

研究課題名(和文) 図書寮蔵書形成過程の基礎的研究

研究課題名(英文) Fundamental study on the formation process of the collections of the Imperial Household Agency's Library

研究代表者

小倉 慈司(OGURA, Shigeji)

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授

研究者番号：20581101

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)： 宮内庁書陵部図書寮文庫は数多くの貴重書を有する機関として知られているが、その蔵書がどのようにして形成されたのかを特に明治期に重点を置いて研究した。

主としてこれまで研究にほとんど用いられることのなかった宮内公文書館所蔵特定歴史公文書等の中に含まれる収書や移管に関する書類を調査分析することによって、近世禁裏本が東京に運ばれ、宮内省侍講局の蔵書となる経緯やその後の移管関係を明らかにした。また現在、「御所本」や「壬生本」として整理されている図書の中にそれ以外の図書が混入していることや、旧蔵が明らかにされていなかった図書の中に禁裏本が多数含まれていることなどを解明した。

研究成果の概要(英文)： The Imperial House Library is known as an organization that has a number of rare books. This project investigated how its collections were built with particular focus on Meiji era.

Firstly, this investigation revealed the details how the Kinri collections (the books of the Imperial Court in the early modern period) transported to Tokyo, and the subsequent transfer relationship that becomes the collection of Jiko Bureau, the Imperial Household Ministry by research and analysis of the historical public records and archives related to gathering or transferring in the Imperial Household Archives.

Secondly it was revealed that the Goshō collection and the Mibu collection in the Imperial House Library included some unrelated books and that many books of unknown origin were to be included in Kinri collection.

研究分野：史料学、日本古代史

キーワード：史料学 蔵書史 宮内庁書陵部 禁裏本 図書寮 宮内公文書館 日本史

1. 研究開始当初の背景

宮内庁書陵部は1884(明治17)年に宮内省に設置された図書寮をその前身として1949(昭和24)年に設けられたわが国有数の資料保存機関であり、同部図書寮文庫には「御所本」と呼ばれる近世の皇室伝来本に由来する資料群や伏見宮家等の宮家旧蔵本、また九条家・鷹司家・柳原家・山科家等の公家旧蔵本など、多数の貴重な典籍・古文書類が蔵されている。

それらは以前から日本史・東洋史や国文学・漢文学等の研究者の関心と呼び、重要な研究対象とされてきた。特に近年は研究が深化し、史料学への関心が高まったこともあり、**写本研究**の重要性が広く研究者の間で共有されつつある。写本研究にあたっては原本あるいは古写本の検索が重要であるが、それに劣らず、近世(もしくは近代)の**新写本**を精査してより良質な本文を伝えている善写本を探することも肝要である。そのためには、例えばある写本がどのような経緯を経て書写されたのか、またそれがどのような経緯を経て**伝来**したのか、という点について調査把握することが重要な鍵となる。

加えて、そうした書写過程・伝来過程を明らかにすることは、写本研究のみならず、**前近代の知識ネットワーク**を解明するという観点からも注目される。

2. 研究の目的

上記のような研究状況を踏まえて宮内庁書陵部図書寮文庫の蔵書群を見渡した場合、その現状には、以下のような問題点が挙げられる。

第一は、書陵部(旧図書寮)に収蔵される以前の**伝来(旧蔵者)が必ずしも明確でない**という点である。書陵部の蔵書は宮内庁書陵部編『和漢図書分類目録』や『書陵部紀要』彙報欄によって紹介されており、それらには必要に応じて家別記号が付されていて、旧蔵者の大要を知ることができる。しかし家別記号が付されていない書籍も多数存在し、それらの中に、実際には、伝来を明らかにすることができる書籍が多数含まれていることを応募者は確認している。また付されている家別記号に誤りがある、あるいは誤りとは言えないものの、誤解を生じる可能性がある事例も少なからず確認される。

「御所本」を例にとれば、現在、一般的には、「御所本」とは近世より皇室に伝来してそのまま図書寮に引き継がれた書籍であると理解されているが、実際には「御所本」とされている中に、明治期に皇室に献上された書籍や、昭和期に新たに収蔵された書籍ではあるものの伝来をたどれば近世の皇室の所

蔵であったと判断されるところから「御所本」と分類された書籍も含まれているのである(この点については、たとえば小倉慈司「宮内庁書陵部所蔵奈良朝写経の来歴」西洋子・石上英一編『正倉院文書論集』青史出版2005年、参照)。

第二には、宮内省図書寮・宮内庁書陵部における蔵書の整理が長期間にわたっているため、その蔵書群の全体像を把握することが難しく、したがって**旧蔵者ごとの蔵書の全体像を把握することも困難**である点が挙げられる。このことは、例えば公家単位での知の体系を明らかにするために蔵書の復原を行おうとするときに大きな障害となる。

このような問題点を解決し、宮内庁書陵部の前身である宮内省図書寮の**蔵書集積過程を明らかにすること**が本研究の目的である。あわせて御物である東山御文庫本やその他の機関に伝来する**近世皇室伝来本との関係**についての解明も目指したい(代表者は以前に図書寮文庫所蔵伏見宮本・柳原本・九条本についての目録を作成している。田島公編『禁裏・公家文庫研究』3・4 思文閣出版2009・2012年、に収録される)。

3. 研究の方法

2に記した課題を解決し、宮内庁書陵部図書寮文庫の全貌を明らかにすることは容易ではなく長期間にわたる調査研究が必要と考えられる。

そこで本研究ではその第一段階として、特に明治～大正年間、なかでも図書寮設置当初からその蔵書とされてきた資料群の調査に重点を置いて研究を進めることにする。具体的には以下の2点に力を注ぐ。

(1) 明治維新以降、図書寮創設期にいたるまでの蔵書の動きの解明

維新後、それまで京都御所に収蔵されていた皇室所蔵本の一部が東京に移されるとともに、宮内省内において新たに書籍が収集され、これが図書寮創設期の蔵書となる。この間の蔵書の動きは、宮内省内において一括管理がなされていなかったこともあり、不明確な点が多いが、出来る限り宮内庁書陵部所蔵特定歴史公文書等や皇室図書中の関係資料を探索し、その動きを明らかにする。

(2) 図書寮外に移管された宮内省旧蔵書や東山御文庫本との関係性の解明

(1)に関連して、図書寮が設置される以前に東京書籍館(現国会図書館)等へ移管された資料が存在し、また設置以後についても重複本として京都帝国大学等の機関へ移管されることがあった。さらに京都御所より東京に運ばれなかった書籍は御物として東山御文庫に収蔵されることになる(東山御文庫本)なのであるが、これらと

の関係について丁寧に整理しておくことも、図書寮蔵書の動きを解明する上で重要と考えられる。

4. 研究成果

本研究において挙げた成果は以下の通りである。

(1) 宮内公文書館所蔵特定歴史公文書等中の収書・移管関係書類の調査

宮内公文書館に蔵される『図書録』『貴重図書録』『侍講日記』『侍講局図書購入諸件』『吹上御文庫書籍目録写』『図書寮史』『御物目録』『御歌所日記』『重要雑録』『什宝録』等の調査をおこなった。特に『図書録』には書籍の受け入れや移管に関する記録が多く残されており、当初よりも範囲を広げて1952(昭和27)年までの調査をおこない、また『雑件録』『部局特殊一件記録調』等、当初は検討対象としていなかった特定歴史公文書等にも手を広げて調査をおこなった。ただしその一方で本研究開始後に新たに整理公開された特定歴史公文書等について、その存在に気づくのが遅れたために、十分に調査をおこない得なかった資料も存在する。

これらの調査は大量にのぼるため、そのすべてを分析し論文のかたちにとまとめて報告するにはいたらなかった。そのため、現時点での調査内容の報告、また今後の研究に資することを目的として、成果報告書『宮内公文書館所蔵『図書録』(戦前期)件名目録』を作成し、1946(昭和21)年までの『図書録』『図書録 追加ノ部』『図書録別冊』と『貴重図書目録』『侍講局雑書』の件名目録を収録した(5図書)。件名目録には備考を付して内容を把握しやすいようにし、また解説として「宮内公文書館所蔵図書寮蔵書関係公文書略解」「宮内庁書陵部所蔵資料関係参考文献目録(稿)」「宮内庁書陵部所蔵戦前期受け入れ蔵書群 索引」を付した。

(2) 京都御所旧蔵本と宮内庁書陵部図書寮文庫御所本との関係の解明

3に記したように、図書寮文庫本の家別(コレクション)で大きな問題を抱えているのが、御所本である。本研究の過程でその鍵となる資料である『吹上御文庫書籍目録写』を調査分析することにより、明治初年の京都御所旧蔵本が東京に運ばれ、宮内省侍講局に収蔵され、やがて図書寮が設置されたことにより、同所の所蔵となった過程が明らかになった。そこで同目録と現蔵書、また『図書録』によって判明する学習院や華族女学校、帝国博物館、京都帝国大学へ移管された書目等と対比させ、現図書寮文庫中に含まれる京都御所旧蔵本のうちのかなりの割合について特定することが可能となった。ただしさらに原本にあた

って精査する必要があるものもある程度残っており、今後の課題と言える。

(3) 宮内庁書陵部図書寮文庫所蔵壬生家旧蔵本の解明および京都御所旧蔵本漢籍の調査

『図書録』所収の壬生家旧蔵本関係文書を精査し、一部については原本調査をおこなうことによって、現在、宮内庁書陵部所蔵壬生家旧蔵本の全体像を明らかにした(5図書)。この調査により従来知られていたものの他にも山科家旧蔵本等、他家旧蔵書が誤って壬生家旧蔵本として整理されている書物があることが明らかとなった。ただしこれについてもすべての書目について明らかにすることはできず、一部についてはさらに今後の精査を要する点が残されている。

なお、京都御所東山御文庫本やこれまで知られている宮内庁書陵部図書寮文庫御所本の中にはほとんど漢籍がなく、京都御所旧蔵本中の漢籍の行方についてはこれまで十分に明らかになってこなかった。『吹上御文庫書籍目録写』には漢籍も掲載されており、これによって京都御所旧蔵本の漢籍の多くが東京に運ばれたことが判明した。これと東山御文庫に伝わる近世期の漢籍目録を対照精査することにより、禁裏本漢籍の伝来が明確になると考え、まずはその漢籍目録を翻刻した(5雑誌論文)。今後、この目録と『吹上御文庫書籍目録写』を参考にしつつ原本を調査することにより、近世皇室における漢籍の位置を解明することが可能となると考えている。

(5) 諸典籍の書誌学的研究

本研究によって明らかになったことを利用して諸典籍の書誌学的調査に活かした。

その一つが5雑誌論文 で明らかにした国立歴史民俗博物館所蔵高松宮家伝来禁裏本と図書寮文庫所蔵有栖川宮家旧蔵本との関係である。宮内公文書館所蔵特定歴史公文書等の中には有栖川宮家旧蔵本の図書寮への移管に関する書類が含まれており、それを同論文の執筆に活用した。

また5図書 は国立公文書館所蔵本(内閣文庫本)の影印であるが、その解題を執筆するにあたって、本研究の成果を盛り込むことができた。このシリーズでは、研究協力者である高田義人氏も解題を担当されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

小倉 慈司、東山御文庫本『字書目録』(勅

封 164-74)、国立歴史民俗博物館研究報告、査読有、195、2015、pp.111-123

小倉 慈司、宮内庁書陵部所蔵京都御所旧蔵本の由来 吹上御文庫本の検討、国立歴史民俗博物館研究報告、査読有、183、2014、pp.83-207

小倉 慈司、「高松宮家伝来禁裏本」の形成過程、国立歴史民俗博物館研究報告、査読有、178、2013、pp.353-404

[図書](計 4件)

田島 公、小倉 慈司、吉岡 眞之、恵美千鶴子、遠藤 基郎、木下 聡、金子 拓、稲田 奈津子、藤原 重雄、遠藤 珠紀ほか、思文閣出版、禁裏・公家文庫研究第5輯、2015、pp.463-362

小倉 慈司、小倉 慈司、宮内公文書館所蔵『図書録』(戦前期)件名目録、2015、118

小倉 慈司、高田 義人、池和田 有紀、木村 真美子、石田 実洋、新井 重行、尾上 陽介、汲古書院、内閣文庫所蔵史籍叢刊古代中世篇 5、2013、pp.520-525、556-558

小倉 慈司、石田 実洋、汲古書院、内閣文庫所蔵史籍叢刊古代中世篇 4、2012、pp.514-522.

6. 研究組織

(1)研究代表者

小倉 慈司(OGURA, Shigeji)
国立歴史民俗博物館・研究部・准教授
研究者番号: 20581101

(4)研究協力者

高田 義人(TAKADA, Yoshihito)
宮内庁書陵部・編修課・主任研究官